目次

レッスン① 「主題名」の付け方、「本時のねらい」の立て方 ・・・・・・・・・・・・・・・ 2
レッスン② 「主題設定の理由（指導観）⑴ねらいとする道徳的価値について」の書き方 ・・・・・ 4
レッスン③ 「主題設定の理由（指導観）⑵児童の実態について」の書き方 ・・・・・・・・ 6
レッスン④ 「主題設定の理由（指導観）⑶教材について」の書き方 ・・・・・・・・・・・ 8
レッスン⑤ 展開の前段における「発問」の作り方 その⑴ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
レッスン⑥ 展開の前段における「発問」の作り方 その⑵ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
レッスン⑦ 展開の後段の作り方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
レッスン⑧ 導入の作り方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
レッスン⑨ 終末の作り方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
レッスン⑩ 評価の仕方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
レッスン⑪ 「指導上の留意点」に書くこと ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
レッスン⑫ 家庭・地域向け公開授業学習指導案の作り方 ・・・・・・・・・・・・・ 24

レッスン①　「主題名」の付け方、「本時のねらい」の立て方

道徳授業に生きた「主題名」と「ねらい」を！

道徳科の**「主題」**とは、授業者が何を授業のねらいとし、そのねらいを達成するためにどんな教材を使い、それをどう活用するかのまとまりを示すものです。**「主題」**についての授業者の意識の強弱が授業の成否を決めると言ってよいと思います。

一　具体的でピッタリな主題名を付ける

主題名は、ねらいとする道徳的価値と使用する教材とで構成した**主題**を端的に表したものです。

ですから、次のような**主題名**はＮＧです。

×〔友情、信頼〕〔正直、誠実〕など、内容項目のキーワードを主題名にしたもの

×「泣いた赤おに」「はしの上のおおかみ」など教材名を主題名にしたもの

小学校中学年の教材「泣いた赤おに」と「絵はがきと切手」は同じＢ〔友情、信頼〕の教材ですが、二つの教材の主題はそれぞれ異なります。ですから、当然主題名も異なってきます。

なお、主題名は児童にも容易に理解できる具体的で分かりやすい名前にしましょう。抽象的で漠然とした主題名は要を得ません。

そして主題名は、授業で児童が目に触れられるように配慮しましょう。今までの主題名の多くは、年間指導計画や学習指導案の中だけに登場し、日の目を見ずに消えていく存在だったように思います。それでは宝の持ち腐れです。実にもったいないと思います。

二　「本時のねらい」を鮮明に立てる

道徳科に限らず、どの授業でも「本時のねらい」を立てます。「本時のねらい」は授業のゴール、つまり出口を示すものです、授業終了時に児童が到達している地点を示すものと言えましょう。ですから、ねらいが漠然としていては授業がブレてしまいます。

その点、各教科の「本時のねらい」は実に具体的で明確です。例えば、小学校第二学年の算数「3の段の計算の性質やきまりを見つける」などは極めてはっきりしたゴールです。授業者はそのねらいをはっきり意識して授業を組み立てることができます。

それに比べ、道徳科のねらいは実に抽象的で曖昧な性質を帯びています。

特に多いのが、

・身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てる

・友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる

など、学習指導要領の内容項目をそのまま引用し、語尾に心情や態度などの道徳性を付け加えたねらいです。

これでは授業のゴールが漠然としていて曖昧ですから、ねらいが達成できたのかどうか授業評価すらできません。

その結果、手応えがない虚しい授業のまま終わってしまい、道徳の授業がつまらなくな

ったと言う教師が大勢います。そこで、

① 主題に即して具体的なねらいを立てる

第一のポイントは、本時の**主題に即して具体的なねらいを立てる**ことです。本時の学習で児童に深く考えさせたい**ことやところ**をねらいに組み込むと授業が具体的にイメージできると思います。

② ねらいの語尾をよく吟味する

二つ目のポイントはねらいの語尾の吟味です。道徳科の目標は、道徳的な**判断力**や**心情**、**実践意欲**や**態度**などの**道徳性**（道徳的な行為や行動の発条となる**内面的な力**）を養うことにあります。

その道徳性の中で、特に道徳的心情は重要な道徳性であると言えます。

道徳的心情とは、人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情のことで、善を喜び、悪を憎む感情であるとも言えます。そして、それはあらゆる道徳性の基盤となるものです。お城に例えるならば石垣に相当します。その豊かな心情の上に確かな道徳的判断力が培われなければなりません。

《望ましい主題名の例》

「しんせつするって いいきもち」 B[親切、思いやり]小低

（はしの上のおおかみ：文科省わたしたちの道徳）

「あきらめずにやりとげる」 A[努力と強い意志]小中

（わたしの命は音楽とともに：東京都教材集）

「友達を信じる」 B[友情、信頼]小高

（友の肖像画：文部省道徳の指導資料とその活用３）

「すがすがしい気持ち」 A[正直、誠実]小高

（手品師：文部省道徳の指導資料とその利用１）

《望ましい「本時のねらい」の例》

人に意地悪するより温かく接する方がずっといい気持ちになることを自分との関わりで考える学習を通して、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てる。

（B[親切、思いやり]小低：「はしの上のおおかみ」）

友達の青おにの大切さ、かけがえのなさに気付き、いつまでも泣き続ける赤おにの内面を自分とのかかわりで考えることを通して、友達は本当にいいものだと思い、友達を大切にしようとする心情を育てる。

（B[**友情、信頼**]小中：「ないた赤おに」）

さらに、この道徳的心情や判断力によって価値があるとされた行動をしようとする傾向性や行為への身構えのことを実践意欲及び態度というのです。

小学校の道徳授業は、とりわけこの道徳的心情を豊かに育む指導に重点を置くべきであると私は考えています。道徳的心情の裏付けのない判断力等の育成は、知恵ある悪魔を育てているようなもので、まして態度の育成などまだまだ先の課題です。

ところが、小学校一年生の学習指導案に「～しようとする**態度**を育てる」というねらいをよく見かけます。そんな時私は「この授業者は道徳授業を誤解している」と思ってしまいます。「授業で学んだことは即実践につかがらなければならない」と…。

小学校でこういう授業ばかり受けていると、中学校の先生達は授業がやりづらくて仕方がありません。人間模様の機微に触れる感動的な教材を心を込めて提示しても、生徒は何も感じない、響かない、分からないのです。

小学校では、まず、道徳的心情を豊かに育む授業を丁寧に積み重ねることが大切です。

レッスン②　「主題設定の理由（授業者の指導観）」⑴　の書き方

ねらいとする道徳的価値についての哲学を深めよう！

本書の学習指導案の形式は「学習指導要領解説 特別の教科道徳編」（以下、「解説 」という）で示されている項目に合わせています。

レッスン②は「主題設定の理由（**授業者の指導観**）」の中の**⑴ねらいとする道徳的価値について**に「何を書けばよいか」です。

これからの道徳授業においては、授業者は今まで以上に自己の**指導観**を明確にもって授業に臨むことが求められています。（本書では常にこのことに触れていきます。）

「⑴ねらいとする道徳的価値について」には何を書けばよいか？

ねらいとする道徳的価値とは、学習指導要領 第３章 特別の教科 道徳 **第２内容**に示されている内容項目のことで、四つの視点で整理されています。（Ａには六つ、Ｂには五つ、Ｃには七つ、Ｄには四つの内容項目が示されています。）

⑴ねらいとする道徳的価値についてには

○本時で扱う内容項目、つまり「道徳的価値」とは一体どんな価値なのか？

○この価値は人間がよりよく生きる上で、どんな意味や意義があるのか？

○この価値はどうしたら身に付き、実現するのか？

についての授業者の考え（価値観）を書きます。

学習指導案作成の中で、最も苦しむのがここだと思います。なぜなら、当然のことを根本から疑い、考え直すということですから。例えば、Ｂ[親切、思いやり]はなぜ大切なのか、親切とおせっかいはどう違うのか、相手が親切に付け上がってしまったらどうするのかなど、自問自答しながら最終的にその価値の大切さを根拠付けていくのです。

その厳しい思索を通して獲得した授業者の**価値観**が授業を根底から支えます。深い授業を行うためにはどうしても避けて通れない営みです。ここでの思索がいい加減だと薄っぺらな授業になってしまいます。

したがって、ここには授業者の人生経験や教職経験などによる違いが現れます。

それが大事なのです。初任者は初任者なりの、ベテランはベテランなりの価値観でよいのです。今の授業者の精一杯の考えを明らかにすることが大事なのです。

しかし、ただ闇雲に「価値観をもて！」と言うのはあまりにも乱暴です。

「解説」第３章 第２節 **⑴ 内容項目の概要**を手掛かりにしましょう。そこには道徳的諸価値についての国の解釈と解説が示されていますので、それを手掛かりにして自分の考えを整理し、深めていくことが大切です。

＜小学校：C [家族愛、家庭生活の充実] 中学年　（40 代女性教師）＞

社会の中で一番小さい集団であり、基盤となる集団が家庭である。児童の人格形成は家庭にある。よって、親は自分の子供がよりよく生きるために時にはほめたり、本気で叱ったりもする。それは、親にとっては、子供は言葉ではいいつくせないほど大切なものであり、子供への思いが大きければ大きいほど、子供と真剣に向き合うからである。子供の幸せを願い、自分の命をかけても守りたいという無償の愛をもって育てているからでもある。

しかし、児童にとってはその思いがわからず、時には、自分は親から認められていないのではと不安になってしまうこともある。なぜならば、家族は、生まれた時から、いつも自分のそばにいてくれていて、どんなことがあっても自分を見放さずに支えていてほしいと思っている存在だからである。特に小学校中学年ぐらいの児童にとっては、家族が自分にとって一番の存在であり、一番近い存在でもある。親の愛情をたくさん受け、親の愛情の深さを知ることで、児童は、安心することができ、児童の心が安定する。

親や家族の深い愛情によって今の自分があること、また成長できていることを児童に気付かせていきたい。そうすることによって、児童が、自分が家族の大切な一員であるという実感を深め、自分も何かできないかと考えさせることで、家族と協力し合って、楽しい家庭を作っていきたいという心が芽生えると考える。

＜小学校：B [友情、信頼] 中学年　（20 代男性教師）＞

人は、一人で生きていけない。様々な人とかかわるからこそ、悩み、喜び、成長していく。児童を取り囲む人々の中で、家族が大きな支えとなることはもちろんであるが、児童の心の中で重要な位置を占めるのは、友達の存在である。少しのことでも声をかけてくれたり、自分を気遣ってくれたりする友達がいると、ほっと心が安らぎ、自分は一人でないと感じることができる。また、困った時やつらい時に寄り添い、支えてくれる友達がいれば、友達は自分にとってかけがえのない宝物であることに気付くことができる。豊かな人生を送る上で、友達の存在は欠かせない。

しかし、互いが互いを理解し、信頼し、助け合う関係を築くことは容易ではない。友情とは、ただの仲良しではないからである。互いの立場を理解し、よさを認め合い、信じ合うことが友情である。そして、相手の行為を待つのではなく、お互いが友達のためを思って行動していく中に、強い絆が生まれていく。

＜小学校：A [正直、誠実] 高学年　（50 代男性教師）＞

人間が健康的で明朗な自己像を描くためには、自分自身に対する誠実さをもつことや、明るく楽しい生活を心掛けることが大切である。うそやごまかしのある生活からは健康的で明るい生活は実現しない。したがって、自分自身に正直であることのすがすがしさを実感し、自覚し、そうした明るい生活を実現しようとする気持ちを育てることは大切である。

とはいえ、人は恐れや不安、損得利害や恥ずかしさなどから自分を守るために、つい嘘をついたりごまかしたりしてしまうことがある。このことは表面上相手に対する嘘やごまかし、裏切りといった形で表れ、一時的な凌ぎになるが、心の奥底で自分自身に対する大きな罪を犯しているのである。その結果、自分自身の心は曇り、元気のない生活に陥ってしまうのである。

自分自身の良心に誠実に生きるということは、自分自身の人間としての尊厳を静かに光らせ、輝かせることに他ならない。

レッスン③　「主題設定の理由（授業者の指導観）」⑵　の書き方

愛情深く肯定的に児童の実態を述べよう！

教育は児童理解に始まり、児童理解に終わると言われています。いや、児童理解に終わりはないという人もいます。

それほど教育にとって児童理解は重要な課題です。

児童理解は目に見える外面的な理解に止まるものであってはいけません。その理解は「人間とは何か」「児童とは何か」「人はどのように成長し、発展するのか」など、尽きることのない探求と深い児童愛とを伴うものでなければならないし、とりわけ道徳教育は児童の人間的な成長を願い、その道徳性を育むための教育ですから、児童理解には極めて謙虚で慎重な態度が求められます。

しかし、まだ多くの指導案の「児童の実態」欄には重大な問題が散見されます。

その問題の多くは、概ね次のような三段落によって記述されています。

最初の段落では「本学級の児童は明るく元気で…」といった一般的なよさが書かれています。

第二段落では、「しかし」とか「一方」とかの接続詞が用いられ、「ここが悪い、あそこが足りない」と本時の指導内容に関する児童の欠点や短所がこれでもかとばかりに列挙されています。

そして、第三段落では「したがって…」とか「そこで…」といった接続詞を用い、その欠点改善・短所是正の指導方針が力強く述べられています。

そんな児童理解で道徳の授業をやられては児童はたまったものではありません。ますますへこんでしまいます。

道徳科授業は児童の短所を是正し、欠点を改善するために行うものではない

反省や懺悔の強要は「僕はダメな人間だ」「私にはよいところがない」と児童の自信を喪失させ、生きる気力を萎えさせます。

道徳科の授業は児童に人間としての自信や誇りを育み、希望と勇気を与えるものでなければなりません。「僕は人間としてまんざらでもない」「私にもよいところがある」という気持ちが湧いてくる授業にしなくてはなりません。

週に一度、児童は自己を見つめ、自己と対話しながら人間としての自信や誇りを自ら育んでいく、そんな授業にするために、児童理解を見直し、希望あるものにしましょう。

児童の実態把握と五つの留意点

☆　児童の実態を（児童の）「内面形成」と「行動傾向」の両面から把握することが大切。把握方法には 調査法、検査法、作文・日記法、面接法、観察法、事例研究法など様々な方法があるが、それぞれには一長一短があるので、多様な方法を駆使して、総合的に実態を把握するよう努めること。

☆　主題設定理由⑴「ねらいとする道徳的価値について」で述べた視点に基づき、実現している「児童のよさ」を具体的に認め、次の可能性を探り示すこと。

☆　道徳教育の全体計画別葉の中から本時の指導内容に関連して行った教育活動を具体的に記載すること。

☆　本時の指導内容とは関係のない一般的な実態は記載しなくてよいこと。

☆　児童の実態に基づき、本時でさらに深めたい指導の重点を明記すること。（スモールステップでよいので）

いずれにしても、肯定的で愛情ある児童理解に徹することが大切です。

＜小学校第３学年：C [家族愛、家庭生活の充実]の児童観の例＞

「ぼくの生まれた日」

本学級の児童は伸び伸びとしていて、屈託のない笑顔をたくさん見せてくれる。その様子からも家族からたくさんの愛情を受けて育っていることがよくわかる。行事などの前に、「お母さんに見てもらうために頑張る。」という発言があったり、普段よいことがあると、「お家の人に教えてあげるんだ。」と嬉しそうに話していたりすることが多い。また、冬休みの宿題で、家の手伝いをした時など、「たくさんほめてもらって、うれしかったよ。」など家族のためにやることの楽しさも感じている。

大好きな家族、お母さん、お父さんがどんな思いで自分を育てているかに気付くことで、さらに家族を敬愛し、自分が家族の一員であるという実感をもたせていきたい。そして、さらに自分が家族のために何かできないかを考え、家族と協力し合って、さらに楽しい家庭にしていきたいという気持ちを育てていきたい。

＜小学校第４学年：A [希望と勇気、努力と強い意志]の児童観の例＞

「ホームランを打ったことのない君に」

本学級の児童は、今までの道徳の時間において、先人の生き方から努力をすることの大切さや素晴らしさについての考えを深めてきた。学校生活の中でも、運動会や学芸会などの行事を通して、目標に向かって粘り強く取り組むことの大切さを指導してきた。本年度は、２学期・３学期に、「憧れの自分」を挙げ、それに向かって各自１週間ずつ目標を立て、取り組んできている。

これらの活動を終えて、児童は勤勉努力についてどう感じているか、アンケートを実施した。

「よりよい自分になるために自ら何かに取り組んだことがある」と答えた児童は学級の８６％であった。「うまくいかない時は諦めるか。」という設問では、「諦めない(５８％)」「諦める(３％)」「どちらもある(３９％)」という結果が出た。また、「最後まで取り組むことは良いことだ」と考える児童は８７％、「あまり良いとは思わない・分からない」と答えた児童は１３％であった。ここから、最後まで粘り強くやり抜くことはよいことと理解していても、実際に何か困難にぶつかると途中で諦める時もあるという児童の実態があることが分かる。

そこで本時では、思うような結果が出ず、くじけそうになる主人公の弱さに共感させながら、人間としての弱さや脆さについての理解を深めるとともに、自分の掲げた夢に向かい努力を続けるひたむきな姿に尊さを感じることができるよう指導したい。

＜小学校第１学年：B [友情、信頼]の児童観の例＞　「二わのことり」

本学級は、週に２回クラス遊びをするなど、大勢で楽しく遊ぶことが好きな児童が多い。授業中のグループ学習や、運動会の団体競技などで、友達と協力することのよさや楽しさを味わってきている。また、クラスで泣いている子がいると、必ず誰かが「どうしたの？」「大丈夫？」と声をかけており、友達を大切にしようとする気持ちも育ってきている。

そこで本授業では、自分を認め励ましてくれる友達のよさを実感するとともに、さらに友達を大切にし、助け合おうとする心情を育てたい。

レッスン④　「主題設定の理由（指導観）」⑶　の書き方

「教材について」を熱く語ろう！

教材は児童の心を映す鏡であり、生き方の糧となるものでなければなりません。

その意味で教材は道徳科授業の**命**といえます。教材の良し悪しで授業が決まると言っても過言ではありません。

ですから、教材選びに妥協は許されません。

よい教材を選ぶ、これが一番大事！

よい教材とは**「ねらいに合っている」「分かりやすい」「興味・関心がもてる」「臨場感がある」**教材のことを言います。教師が惚れた教材は間違いなくよい教材です。よい教材は児童の心を鮮明に映し出します。

一方、よくない教材にはそれがありません。児童の短所を直そうとする下心が見えて、実に胡散臭い感じがします。そういう教材はお風呂場の鏡のように児童の心を何も映さず、すぐに忘れ去られてしまいます。

そもそものことですが、道徳の時間は教師が児童の心に道徳の「種を蒔く」時間です。

種を蒔くのは教師の仕事です。しかし、芽を出し、花を咲かせるのは児童の仕事です。

蒔いた種は芽が出ないかもしれません、花は咲かないかもしれません。しかし、蒔かぬ種は生えぬのです。だから、種は蒔き続けなければなりません。それが教師の仕事です。

せっかく蒔くなら良質の種を蒔く、それが教師の誠意というものだと思います。

種とは教材のことです。

道徳科の学習は、児童が教材に自己を映し、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める学習です。自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めるのは、児童です。

にもかかわらず、外側から児童に望ましい行為・行動の仕方を押し付けようとしている教材を「よくない教材」と言うです。そういう教材を使ってどんなに指導法を工夫してもよい授業にはなりません。

道徳の授業では、児童の心をありのままに映す教材を使うことが何より大事です。

よい教材は教師の心で探しましょう。ただじっと待っていてもよい教材には出会えません。まず、たくさんの教材を読みましょう。

（とは言え、道徳科には採択教科書の使用義務があります。しかし、採択教科書以外の教材は使用できないかというとそうではありません。詳しくは私のホームページの「クローズアップ道徳科」vol.15をご覧ください。）

また、教科書に掲載されている教材で原作がある教材は原作も調べましょう。教材理解が一層深まり、指導のポイントがより明確になると思います。さらに、児童の実態に合った教材改作へ発展させることもできるかもしれません。

教材観を熱く語ろう

ここに教材の粗筋だけ書いただけの指導案をよく見ますが、それはあまり意味があるとは言えません。

ここには、

＊ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるために、なぜこの教材を選んだのか？

＊この教材のどこにスポットを当てて、どんな学習活動をさせようと考えているのか？

などについて、教材提示や板書計画などに触れながら熱く語ることが大事です。

教師が惚れた教材を使うから授業は熱を帯び、指導に迫力が出るのです。使用する教材を選ぶのに妥協は許されません。

ここに、教材づくりの名人平林和枝先生と、教育愛あふれる教職五年目の若き女性教師の教材観を掲載します。教材への熱い思いが伝わってくると思います。

主題名　より高い目標をめざして

内容 A[希望と勇気、努力と強い意志]

教材名：宇宙をめざして（自作）　　中学校第 3 学年用

本教材は惑星探査機「のぞみ」と「はやぶさ」の事実と映画「おかえり、はやぶさ」のストーリーをあわせて平林和枝が改作したものである。（教材中の名前は仮名）

７年におよぶはやぶさプロジェクトチームの苦闘は筆舌に尽くしがたいものである。どうしてそこまでがんばれたのか、調べていくうちに、そのまえの火星探査機「のぞみ」の存在が浮かびあがってきた。そして、ここでがんばらねば日本の宇宙開発の未来は無い、二度と失敗を繰り返すわけにはいかないという強い危機感が感じられた。

米国・露国(含むソ連)両国合わせ 30 数回火星に探査機を打ち上げ、計 20 数回失敗しているのとは違い、日本初の打ち上げなのに失敗は許されない雰囲気が日本にはある。それなのに、いざ打ち上げとなると、小さい船にあれもこれもと沢山積みこまされ、それも失敗の一因ではないかと言われるくらいである。

さらに、今の宇宙ブームと違い当時は惑星探査への国民の理解も乏しい。「はやぶさ」でさえ帰還する時、マスコミの扱いは軽かった。大きく取り上げられるようになったのは、その後である。

本時では失敗に苦しむ大橋博士の葛藤を役割演技をとおして考え、ねらいにせまりたい。

主題名　かけがえのない命　　内容 D[生命の尊さ]

教材名：たったひとつのたからもの（学校図書　一部改作）

小学校第 5 学年

本教材は、心臓に重い障害をもって生まれた子供を両親が深い愛情で包み、一生けん命その命を支えた 6 年間の記録である。1 歳まで生きられるかどうか分らないと宣告されたにもかかわらず、秋雪君はたくましく生き抜いた。両親はどんなに大変な状況でも、我が子へ深い愛を注ぎ続けた。

母である著者は「どんなに苦しい状況であっても、今の命を精一杯生きることが人としての幸せ」と訴えている。

この教材を通して、親がどんな気持ちで子供を愛しているかを感じさせたい。そして、そんなに愛されているあるがままの自分を自分で愛し、出来ることを一生懸命やって生きていくことが大切だと気付かせたい。

レッスン⑤　展開の前段における「発問」の作り方　その(1)

的を射た発問を構成するには教材分析が不可欠！

道徳科の学習指導過程について「解説」は「導入」「展開」「終末」の三段階から説明しています。勿論それでよいのですが、これからの道徳科は目標にあるように**自己を見つめ…、自己の生き方についての考えを深める学習**がより大事にされていきますので、本稿では学習指導過程の「展開」を児童が「教材とかかわって行う学習」(**展開の前段**)と、児童が「自己自身を見つめる学習」(**展開の後段**)とに分けて構成することにします。

なお、学習指導過程を作成する順番は、①展開の前段→②展開の後段→③導入→④終末の順で行うと効率的です。

さて、今回の**レッスン⑤**と次回の**レッスン⑥**は**展開の前段**の発問構成の仕方を演習の形で習得していきます。

的を射た発問を作るためには**教材分析**が不可欠です。最初は手間がかかりますが、その手間を惜しんでは的を射た発問構成はできません。

発問づくりは経験や勘で行うものではなく、根拠を明確にして行うものなのです。

一　登場人物を一人に絞る

教材にはいろんな登場人物が登場しますが、基本的にその中の一人を選んで追いかけていくと授業が深まります。選ぶ人物は「人間くさい人物」を選びましょう。人間くさいとは、悩んだり、失敗したり、反省したり、頑張ったり、成功したりする人物のことです。

本演習(「はしの上のおおかみ」：わたしたちの道徳)では**おおかみ**を追うことにします。

二　場面分け(場面分析)を細かく行う

教材文の各行頭に**通し番号**を打ち(最終行は47になる)、次に**おおかみの内面が微妙に変化するところに着目して**細かく場面を分けていきます。(左の分析表A欄参照。読点で分けられることもあります。)

なぜ細かく分けるかというと、児童にとってピンポイントの発問は考えやすく、話合いもかみ合いやすくなるからです。

三　各場面のおおかみの内面を全て書き出す(内面分析)

次に、各場面のおおかみの内面をあらゆる面からできるだけたくさん書き出します。

「この場面のおおかみを児童に問うたら、どんなことを考えるだろう?どんなことを発言するだろう?」と様々に想像して、ありとあらゆるおおかみの内面を**全て書き**出していきます。(分析表のB欄参照)

その際、大人の常識に囚われないことが肝心で、授業中の児童の反応を様々に想像して書き出していきます。こうして全て書き出しておけば、授業中の児童の発言は全て想定内となり、思いもよらぬ児童の発言にうろたえることはありません。何より構造的な板書(計画)に役立ちます。

これで発問構成のための準備は完了です。

次の**レッスン⑥**では、全11場面の中から、先ず**中心発問場面**を一つ選び、次に残りの場面の中から**基本発問場面**を二つ選びます。

「はしの上のおおかみ」教材分析表　　内容 B[親切、思いやり]

＜わたしたちの道徳　小学校 1・2 年（文科省）＞

※（教材文の）各行頭に 1 から**通し番号**を打っておく（最終行は 47 行になる）

A　場面の概要 key word	B　おおかみの内面	C　発　問
①1 行目～2 行目 山の中の谷川の 1 本橋		
②3 行目～10 行目 うさぎに「こら、こら」「もどれもどれ」と言う。	・何だ、うさぎか　・弱そうだ　・邪魔だ　・脅かしてやろう　・意地悪してやろう　・俺様が先に通る ・俺は強いぞ　・俺は怖いぞ　・食べちゃうぞ	
③11 行目～13 行目 うさぎがもどっていく。「えへん、えへん」	・いじわるって面白いな　・威張るって楽しいな ・いい気持ち　・俺は強い　・参ったか　・もっとやりたい　・次は誰かな　・だれか来ないかなあ	
④14 行目～18 行目 きつねやたぬきを追い返す。「こら、こら」「もどれもどれ」	・きつねもたぬきも弱いな　・また戻らせた　・たまらないな　・いじわるって面白いな　・楽しいな ・次は誰かな　・森の動物みんなにいじわるがした ・俺は一番強い	

⑤19 行目～22 行目の読点、⑥22 行目の**読点**～23 行目、⑦24 行目～25 行目　は省略

⑧26 行～30 行 くまがだき上げて、後ろへおろす。	・えっ！　・何で？　・やさしいな　・ありがとう ・ホッとした　・落とされなくてよかった ・嬉しいなあ　・怖いくまじゃなくてよかった ・親切だなあ　・こんな方法があったんだ	
⑨31 行～32 行 くまの後ろすがたを見ている。	・かっこいいなあ　・やっつけられると思った　・びっくりした　・大きい背中だなあ　・また会いたいなあ ・俺もこうすればよかった　・ありがとうと言えばよかった　・小さい動物たちに謝ろう　・優しいくまだな ・どこに行くんだろう　・くまみたいになりたいな ・今度からくまみたいにしよう	
⑩33 行～42 行 うさぎを後ろにおろしてやる。	・引き返さないで　・もう怖がらなくて大丈夫 ・いい方法があるよ　・優しくするよ　・意地悪しないよ　・親切にするよ　・いい方法だろ？　・うさぎは喜ぶかな　・うさぎはびっくりしたかな　・うさぎは軽いな	
⑪43 行～47 行 「えへん、へん」 前よりずっといい気持ち。	・親切にするっていい気持ち　・うさぎが喜んで嬉しい ・意地悪していたときよりいい気持ち　・まえの「えへん、えへん」と全然違う　・今の方がずっといい ・親切にするといい気持ちになれるんだ　・意地悪はやめた　・小さい動物には優しくしよう　・もっともっと優しくしよう　・これからずっとこんな気持ちでいよう	

レッスン⑥ 展開の前段における「発問」の作り方　その⑵

的を射たシャープな「発問」を作ろう！

一　まず、中心発問場面を一つ決める

教材分析表をもとに、**中心発問場面**を一つ決めます。（中心発問とは「本時のねらい」に直接迫る発問のことです。）

本時のねらいは「身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てる」ですから、これを教材に即して翻訳します。「身近にいる小動物たちに温かい心で接するって大切だな！親切にすると気持ちがいいな！」とおおかみが一番強く、一番深く思っている場面を一つ選びます。それはどこでしょう？ 少なくとも、おおかみが驚いたり、考え込んだり、反省したりしている場面ではありません。中心発問場面のおおかみの心は最も純粋に本時のねらいに満ちあふれている場面を選ぶのです。

その候補として⑧～⑪場面が挙げられると思いますが、それではどの場面でしょう？

いずれの場面も中心発問場面として全く的外れではありませんが、しかし的のど真ん中を射ている、的に当たっているだけの違いはあります。（この分析表を基に指導案検討会を行うと論拠の明確な議論ができることは間違いなしです。）

そう考えると、ど真ん中を射ている、つまり、中心発問場面は⑪が最もふさわしいということになります。

二　本時のねらいを再吟味し、具体的にする

次に、「本時のねらい」を中心発問場面と関連付けて具体的に直していきます。

「小動物たちに意地悪するより温かく接する方がずっといい気持ちになることを知ったおおかみの内面を共感的に理解する学習を通して、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする気持ちを育てる。」

三　基本発問場面を二つ決める

次に、**中心発問**をサポートする**基本発問**の場面を⑪場面以外から二つ選びます。三つ以上だと時間的に深い学習は難しいです。

中心発問場面を決めるより、基本発問場面を決める方が悩むし、また面白いと思います。その選択には授業者の個性や性格、指導意図、教職経験などが如実に表れます。（ちなみに私は③と⑨を選びました。）

なお、発問の構成は、⑴基本発問→⑵基本発問→⑶中心発問というパターンと、⑴基本発問→⑵中心発問→⑶基本発問というパターンの二通りがあります。それ以外の構成は普通ありません。

四　選んだ三つ場面の発問を具体的に作る

三つの発問場面でのおおかみの内面分析（教材分析表Ｂ欄）をさらに吟味充実し、そこに書き出した内面が全て児童から表出されるような**問い方**を工夫します。問い方一つで子供の反応は大きく変わりますので、言葉は丁寧に推敲しましょう。

「はしの上のおおかみ」教材分析表　　内容　B[親切、思いやり]

＜わたしたちの道徳　小学校１・２年（文科省）＞

A　場面の概要・key word	B　おおかみの内面	C　発　問
①1 行目～2 行目 山の中の谷川の１本橋		
②3 行目～10 行目 うさぎに「こら、こら」「もどれもどれ」と言う。	・何だ、うさぎか　・弱そうだ　・邪魔だ　・脅かしてやろう　・意地悪してやろう　・俺様が先に通る ・俺は強いぞ　・俺は怖いぞ　・食べちゃうぞ	
③11 行目～13 行目 うさぎがもどっていく。「えへん、えへん」	・いじわるって面白いな　・威張るって楽しいな ・いい気持ち　・俺は強い　・参ったか　・もっとやりたい　・次は誰かな　・だれか来ないかなあ	⑴もどっていくうさぎを見ておおかみは、どんな気持ちで「えへん、えへん」と言ったでしょう。
④14 行目～18 行目 きつねやたぬきを追い返す。「こら、こら」「もどれもどれ」	・きつねもたぬきも弱いな　・また戻らせた　・たまらないな　・いじわるって面白いな　・楽しいな ・次は誰かな　・森の動物みんなにいじわるがした ・俺は一番強い	

⑤19 行目～22 行目の読点、⑥22 行目の**読点**～23 行目、⑦24 行目～25 行目　は省略

⑧26 行～30 行 くまがだき上げて、後ろへおろす。	・えっ！　・何で？　・やさしいな　・ありがとう ・ホッとした　・落とされなくてよかった　・嬉しいなあ　・親切だなあ　・怖いくまじゃなくてよかった ・こんな方法があったんだ	
⑨31 行～32 行 くまの後ろすがたを見ている。	・かっこいいなあ　・やっつけられると思った　・びっくりした　・大きい背中だなあ　・また会いたいなあ　・俺もこうすればよかった　・ありがとうと言えばよかった　・小さい動物たちに謝ろう　・優しいくまだな　・どこに行くんだろう　・くまみたいになりたいな　・今度からくまみたいにしよう	⑵くまの後ろ姿を見ながら、いつまでも……おおかみはどんなことを思っていたでしょう。
⑩33 行～42 行 うさぎを後ろにおろしてやる。	・引き返さないで　・もう怖がらなくて大丈夫 ・いい方法があるよ　・優しくするよ　・意地悪しないよ　・親切にするよ　・いい方法だろ？　・うさぎは喜ぶかな　・うさぎはびっくりしたかな　・うさぎは軽いな	
⑪43 行～47 行 「えへん、へん」 前よりずっといい気持ち。	・親切にするっていい気持ち　・うさぎが喜んで嬉しい・意地悪していたときよりいい気持ち　・まえの「えへん、えへん」と全然違う　・今の方がずっといい ・親切にするといい気持ちになれるんだ　・意地悪はやめた・小さい動物には優しくしよう　・もっともっと優しくしよう　・これからずっとこんな気持ちでいよう	⑶前よりずっといい気持ちで「えへん、へん」と言ったおおかみは、一体どんなことを考えていたでしょう。

レッスン⑦　展開の後段の作り方

自己を見つめ、自己の生き方を考える展開の後段にしよう！

展開の後段では、展開の前段で教材を通して深めた道徳的価値の理解(自覚)に基づき、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める学習をします。

一　本時の主題に基づいて自己を見つめる

すでに触れましたが、道徳科の授業は導入から終末まで一貫して本時の主題を意識し、主題を貫くことが大切です。

したがって展開の後段も、この「主題」から逸脱することなく、展開の前段の学習の流れに乗って自己を見つめる学習を設定することが大切です。

そうしないと、せっかく展開の前段で深めた学習が展開の後段の学習に生かされず、児童の思考の流れは切れてしまいます。ですから、漠然とした一般的な学習課題はNGです。

二　自己を深く見つめるための配慮事項！

展開の後段の学習は極めてプライベートな学習だと言えます。ですから、子供のプライバシーには十分配慮する必要があります。

「自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める学習」は、そうした配慮の上に成り立ちます。（その点、展開の前段での学習は教材の登場人物に自己を投影して進める学習ですから、そうした配慮はほとんど必要ありません。）

原則として、「発表」を前提としない

発表を前提にして自己を見つめるのと、発表を前提としないで自己を見つめるのとではどちらが安心して自己を見つめられますか？このことを考えれば容易に理解できることです。子供の自尊感情や誇りは尊重されなければなりません。また、発表を前提とすると子供は無意識のうちに発表してもよい程度のことまでしか考えません。

しかし、一概に「発表させてはいけない」わけではありません。学級の雰囲気、つまり教師と子供の信頼関係、子供相互の人間関係が良好であれば、プライベートな内面の発表は極めて有効な学習活動になりえます。

単なる経験の想起や決意表明に陥らない

「今までに～したことはありますか？」などと漠然と問われると多くの子供は「ない！」で終わってしまいます。ですから、経験を想起しやすいように主題に基づいた**具体的な課題**を示すことが大事です。

また、「あなたはこれからどうしますか？」などの決意や努力の表明を迫る課題には気を付けましょう。その課題の正解くらい児童は分かっています。でも、できない自分のことも分かっているのです。低学年ならまだしも、それ以上の学年では先生の顔色を見て正解を探そうとする子が増えてしまいます。

机の配置に配慮する

座席は常にその学習活動にふさわしい形に配置することが大切です。教材提示や先生の話を聞くときは先生と一対一の関係になれる前向き、みんなで話し合う時はコの字型、

グループでの学習は…というように。

では、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める学習はどうでしょう？

自己を見つめる学習では他者の目が気にならない配置がよいと思います。

ワークシートは小さめがよい

展開の後段での学習に書く活動を取り入れるなら、ワークシートは小さめにしましょう。大きなワークシートが配られると、児童はその紙の大きさに圧倒されて学習課題に集中できない子が出てしまいます。そして、たくさんの空白を残して提出…。書く活動はまたもや達成感を味わうことなく終わってしまいます。（このことは書く活動全般について言えることです。）

お薦めはＡ６判です。これならプレッシャーはありません。罫線など引かず文字の大きさは子供に任せましょう。たくさん書きたい子は小さな字で書きます。そうでない子はそれなりの字で書きます。「もっと書きたい」子は裏に書いていいことにしましょう。それでも「足らない」と言う子には「もう一枚あげる」と言いましょう。要は、書くことに苦手感や困り感をもっている子に配慮することが大事だということです。

さらに書く時間は５分以上設けましょう。

概ね７分が最適です。

「展開の後段」の例　（左枠：学習活動　　右枠：指導上の留意点）

主題名：人にやさしく（ぐみの木とことり）小学校第１学年　B[親切、思いやり]

○　困っている人から「ありがとう」と言われて、「よかった！」と思ったことはありますか。	・Ａ６の紙に記入させる。 ・行為だけでなく、そのときの自分の気持ちも振り返らせる。 ・発表はさせない。

主題名：友達を信じる（友の肖像画）小学校第５学年　B[友情、信頼]

○　一番大好きな友達を一人思い浮かべましょう。 その友達に今日勉強したことを伝えましょう。	・展開の前段を振り返ってから課題を示す。 ・A6 判の用紙

主題名：明るい気持ちで生きる（屁：新美南吉）小学校第６学年 A[正直、誠実]

○　自分を守るために人に嘘をついたり誤魔化したりした時、どんな気持ちになりましたか。	・１分間、目をつぶって振り返らせる。 ・発言はさせない。

主題名：許されるということ（銀のしょく台）小学校第６学年 B[相互理解、寛容]

○　大きな失敗をして人に大変な迷惑をかけ、「もうお仕舞いだ！」と思ったときに、人から許してもらって本当に嬉しかったことはありますか。	・Ａ６の紙に記入させる。 ・出来事やそのときの気持ちと同時に、今の気持ちも考えさせる。 ・発表はさせない。

レッスン⑧　導入の作り方

ぶれない授業のために確かな**導入**を作ろう！

学習指導過程を比較的効率的に作成するには①展開の前段→②展開の後段→③**導入**→④終末の順にするとよいでしょう。

今回のレッスンは**⑧導入の作り方**です。

導入は、子供が本時の学習課題（学習の方向）をつかみ、学習意欲をもつ段階です。

導入で子供の学習意欲に火が点けば後は放っておいてもどんどん学習が進みます。ですから、導入を疎かにしてはいけません。導入がうまくいけば、その後の学習もうまくいくはずです。

一　「主題」に基づいて導入を構想する！

何度も繰り返しますが、道徳科の「主題」はねらいとする道徳的価値とそれを達成するための教材によって構成されます。

したがって、導入はこの「主題」を強く意識して計画を立てましょう。

「主題」をあまり意識しないで導入を行うと授業全体がぼんやりとつかみどころがなく、本時の学習課題や学習の方向がはっきりしないまま進んでしまいます。

導入では、本時の主題に即した具体的な学習課題の設定に留意しましょう。漠然とした抽象的な学習課題は要を得ません。

二　「価値への導入」を基本とする！

導入は大きく分けて、ねらいとする「価値への導入」と、教材の内容に関する「教材への導入」の二つがあります。

「価値への導入」で行うと学習の方向付けや学習課題の意識付けが明確になり、授業がぶれにくくなります。

「教材への導入」を行う場合は、一度の教材提示では子供の教材理解が十分に果たせないと判断した時だけに限りましょう。例えば、「青の洞門」がそうです。つちとのみ、三百㍍の長さ、二十一年の歳月、親の仇討を果たさねばお家再興はおろか、帰郷すら許されない時代の道徳観などの理解がないと、この教材の深い理解はできません。（こういう教材は他にもありますので注意しましょう。）

昔、「手品師」の授業で、授業者は特技の手品を披露する導入を考えました。黒いスーツにシルクハット、ステッキのいで立ちで登場するや、軽快なＢＧＭに乗って、ステッキの中から色とりどりの花を取り出したり、帽子の中から白い鳩を飛び立たせたりしました。それには児童はやんやの大喝采で、導入は大盛り上がりで終わりました。

ところが、その後がいけません。児童たちは「どこに鳩を隠していたのだろう？」「ステッキにあんなにたくさんの花が入っていたなんて…！」と、そのことばかりが気になって全く授業に集中できないのです。

手品のことくらいで「教材への導入」をするなと言うことです。

それでも、子供の「教材理解が心配」という場合には（展開の前段の）教材提示の前に

主な登場人物を紹介し、教材のあらましを概説するとよいでしょう。

そのことを「指導上の留意点」に書いておくと忘れずにすみます。

三　児童を抽象思考に引き込まない！

よくやってしまいがちなのがこれです。

児童は概して抽象思考が苦手です。例えば「誠実とは何ですか？」とか「正直な人とはどんな人ですか？」などの抽象的な問いは要を得ません。児童の中には考えられる子もいますが、大多数の児童はとんちんかんなことを考えてしまうのが実態です。ですから、内容項目のキーワードの意味やことばの概念を問うような発問は控えましょう。

導入は、児童が**具体的に考えられる課題**にすることが肝心です。（なお、授業全体を通して、このような抽象的なことを問わないように気を付けましょう。）

以上述べてきましたが、最後にひとつ、教師の説話を導入で行うのも効果的です。児童は教師の人間性がにじみ出る体験談に大変興味を引かれますし、何と言っても主題にかなった**価値への導入**ができます。

「導入」の例　　（左欄：学習活動と主な発問　右欄：指導上の留意点）

主題名：すがすがしい気持ち（手品師）小学校第 6 学年　　A[正直、誠実]

1　すがすがし気持ちについて考える。 ○　どんな時に「すがすがしいなあ」と思います（ました）か。 今日は「すがすがしい気持ち」について考えていきましょう。	・体験を具体的に想起させ、交流させる。 ・様々なすがすがしさに共通する「澄んだ、曇りがない状態」を押さえる。

主題名：大切な友だち（泣いた赤おに）小学校第 3 学年　　B[友情、信頼]

1　大好きな友だちのことを考える。 ○　一番大好きな友達を一人思い浮かべましょう。 その友達のどんなところが好きですか。	・目をつむって考えさせる。 ・想起する時間を十分にとる。 ・名前は言わせない。

主題名：あたたかいこころで（ぐみの木とことり）小学校第 2 学年　B[親切、思いやり]

1　やさしくされたときの気持ちを思い出す。 ○　本当に困っていた時、誰かに助けてもらってうれしかったことはありますか。	・「本当に困っていた時」を強調し、その経験を具体的に想起させる。 ・児童の発言を共感的に受け止める。

主題名：感動の涙（青の洞門）小学校第 6 学年　　D[よりよく生きる喜び]

1　実在する「青の洞門」について知り、教材への興味・関心をもつ。	・青の洞門の写真をテレビ画面で映す。 ・鎚と鑿の実物を提示する。 ・主な登場人物を紹介し、教材のあらましを概説する。その際、21 年の歳月と当時の道徳観にも触れる。

レッスン⑨　終末の作り方

自尊感情や自己肯定感が高まる終末を作ろう！

学習指導過程の最後は終末についてです。

終末では本時の学習を通して考えたことや思ったことを確かめたり、深く心に留めたり、これからの自分へのポジティブ感を高めたりする学習をします。そのための学習活動は様々に工夫されています。

一　教師の説話

これはよく行われています。中には「終末には説話をしなければならない」と誤解している人もいるくらいです。そんなきまりはありません。

しかし、教師の説話には侮れない感化力があります。教師の人間性がにじみ出る説話は、子供の心情に響き、深い感銘を与えることが多いのです。

子供にとって家族以外で信頼する身近な大人は先生です。その先生が今までどんな人生を歩んできたのか、子供は興味津々です。

説話では失敗談を語りましょう。ダメで、情けなくて、みっともない姿を語りましょう。成功談は自慢話にしか聞こえません。

今の子供は非常に自尊感情や自己肯定感が低いです。「間違っちゃいけない、失敗しちゃいけない」と硬くなって、びくびくしながら生きています。そんな子供が先生の失敗談を聞くと、「こんな私でも幸せになれるかもしれない。」、「幸せになってもいいんだ」という気持ちが湧いてきます。だって先生は子供にとって人生の成功者ですから。

ただし、授業者は「その失敗が大人になった今でも時々思い出され、ちくちく心を刺す」ということを必ず付け加えましょう。

授業によっては、展開の後段の学習の前に教師の説話を行うと効果的な場合があります。それは教材の内容が子供の生活とかけ離れ過ぎていて、展開の前段の学習と後段の学習の間のギャップが大き過ぎると判断される場合です。教師の説話が子供の体験想起の具体的な架け橋になります。

二　家族からの手紙

C［家族愛、家庭生活の充実］やD［生命の尊さ］などの授業の終末で家族からの手紙を渡し、それを読むという学習活動があります。これは非常に感動的な学習活動です。

しかし、この活動を行う上で幾つか注意することがあります。

・全保護者の協力が得られる場合のみ行う。
・依頼する課題はシンプルで、しかも分量は少なくする。（せいぜいＢ６判）
・「見ない、見せない、見られない」の厳守。
・絶対に発表などさせてはならない。
・このような依頼は年に一回だけにする。

三　スライドショー

日常撮りためておいた子供たちのスナップ写真を本時の主題に合わせて編集し、それをスライドショーにして映写する方法です。

内容に合ったＢＧＭを流すといい雰囲気が出ます。

三　名言、格言

本時の主題に合った名言や格言をプリントして持ち帰らせる方法です。

「勉強机に一週間貼っておきましょう」と。

わたしより
わたしのことを
よく知っている

ときどき
わたしのことを
わたしより一生懸命になる

その友だちの
わたしは友だち

《友だち　関洋子》

都道徳教育教材集「心しなやかに」より

雨の日には　雨の中を
風の日には　風の中を

《相田みつを》

四　ゲストティーチャー

Ｃ[よりよい学校生活]、Ｃ[伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度]などの授業の終末で卒業生や地域の人、あるいはある分野に秀でた人などを招いて主題にまつわる体験談などを語ってもらう方法です。ただし、ぶっつけ本番はいけません。主題や時間などについて事前の打ち合わせは必要です。

五　教材のつづき

例えば「二わのことり」の原作には続きがあります。今度はやまがらがみそざいを助けるのです。それを読み聞かせるのもよいでしょう。

最後に、若い男性教師が涙ながらに語った説話を紹介します。私ももらい泣きしました。

初任３年目教師の涙の「説話」　　Ｂ[友情、信頼]

先生になった３年前の５月、先生は突然学校に行けなくなってしまいました。夜眠れない、朝起きられない、食べ物が喉を通らない…。学校に行こうとすると気持ちが悪くなって吐きそうになる日が続き、「もう学校の先生は続けられない」と思いました。校長先生に「学校を辞めさせてください」と言いに行くと、校長先生は「君も急に環境が変わって疲れているのだろう。教員には休職という制度があるから、３ヶ月休んで疲れを取ってはどうか。」と言われました。

先生は休職をして田舎の大分に帰りました。大分には中学校時代から親友のショウ君がいます。先生はショウ君に会って全部話しました。先生はショウ君に叱られると思いました。駄目な奴だと軽蔑されると思いました。

でも、ショウ君は黙って先生の話を聞いてくれました。そして、「そうか…、それは辛かったな、苦しかったな。俺はお前を情けないとは思わない。でも、お前がどんなに小学校の先生になりたかったか、そのためにどんなに勉強したか、俺は全部知っている。コウタ、もう一度だけ頑張ってみないか。それでもだめだったら、本当に大分に帰ってくればいい。その時は二人で新しい生活を始めよう。」

先生は泣きました、泣けて泣けてしょうがなかった…。

先生が今、こうして先生を続けていられるのは親友のショウ君のお陰だと思っています。

レッスン⑩ 評価の仕方

「評価の方法」より、「評価の目的」を理解しよう！

「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」になって、多くの学校が戸惑ったり、困ったりしているのが「評価」です。今まで各教科で行ってきた評価では処理できない異質の課題が「道徳科の評価」にはあると思うからでしょう。しかも、その困惑は「評価の方法」に偏っているように見受けられます。

一　道徳科の評価の目的（意義）を理解し、「評価＝把握」と理解しよう

「それぞれの授業における児童の**学習状況**や**道徳性に係る成長の様子**を捉えて、個々の児童の成長を促すとともに、それによって**教師自らの指導を評価し、授業改善に努める**こと」（「解説 」108ページ）が道徳科の評価の目的（意義）です。

したがって、「**道徳科の評価**」は「**児童の学習状況の把握**」だと理解すると分かりやすいでしょう。

二　評価の基本方針を踏まえる

◇数値による評価は行わず、記述式であること

◇相対評価はせず、個人内評価であること

◇個々の内容項目ごとの評価ではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと

◇道徳性に関する評価はしないこと

◇入学者選抜の合否判定には活用しないこと　　など

三　何を把握（評価）するか

学習指導要領の道徳科の目標に示されている「4つの学習」についての学習状況と道徳性に係る成長の様子を把握（評価）する

⑴道徳的諸価値についての理解の様子（価値理解、人間理解、他者理解）

⑵自己を見つめる様子

⑶物事を多面的・多角的に考える様子

⑷自己の生き方についての考えを深める様子

四　評価方法

学習活動（読む、聴く、視聴する、考える、話す、つぶやく、書く、演ずるなど）の観察と記録、ワークシート等の記述、授業後の面談などを駆使して把握する。

五　評価活動を行う上での留意点

＊もっぱら児童の「学習状況」を、具体的に継続的に把握し続けること。

＊一時間に把握できる児童の数には限界があるので、無理のない範囲で行うこと。

＊学習指導案上の記載は、「評価」の欄を独立して設けるか、「指導上の留意点」欄に挿入するかの方法が考えられる。

いずれにしても、評価を行うに当たっては、評価のための評価にならないように注意し、

NG 評価：**「道徳性に関する観点別評価はしない」「～ができたなど評価規準を伴う到達度評価と誤解される表現に気を付ける」「他の児童と比較しない」「積極的に挙手したなど単なる学習活動の様子は記述しない」「授業以外のことは記述しない」**

「学習状況」の把握例

【1 年生　A[節度、節制]　「かぼちゃのつる」**】**

① 注意を聞き入れたくない気持ちが、自分の中にもあることに気付いて「これからはちゃんと注意を聞こうと思う」と発言した。

② まわりの人がどんな気持ちで注意をしているか、友達の考えを聞いて「そうか…」とつぶやいた。自分の考えを広げ、価値の理解を深めていた。

【3年生　C[家族愛、家庭生活の充実]　「ブラッドレーのせいきゅう書」**】**

① 「今までは面倒だと思って家のお手伝いをしていたが、これからは大好きな家族のためを思ってお手伝いをしていきたい」と自己の生き方についての考えを深めていた。

② 「親が子どもの面倒を見るのはふつうのことだと思っていたのが、幸せなことだと気付いたのではないか」と発言した。話し合いの中で価値の理解を深める姿だった。

【5年生　B[友情、信頼]　「友のしょうぞう画」**】**

① 「友達の気持ちを深く考えないで（たぶん、こうだろう）と勝手に思ってしまうことが自分にもある」と主人公に自分を重ねて考えていた。

② 「これからは友達の身になって考え、気持ちを想像して声を掛けていきたい」と自己の生き方についての考えを深める発言があった。

「道徳性に係る成長の様子（指導要録や通知表）」の記載例

※ 通知表の記述は保護者が理解できる平易な表現に！

【低学年】

① 友達の考えをよく聞き、自分の考えとの違いに気付けるようになってきている。

② 友達の考えにうなずいたり、つぶやいたりする姿が多くなり、価値の理解を深めている様子が多くなってきている。

【中学年】

① 友達の話をよく聞き、共感するとうなずく姿が多く見られた。対話的な学びの中で価値についての理解を深めていた。

② 登場人物に自分を重ねながら自分との関わりで考え、発言する姿が多く見られるようになった。

【高学年】

① 判断の根拠は人によって違うことに気付くなど、多面的・多角的に考えることのよさを感じていた。

② 友達の考えに真剣に耳を傾け、自分にはない考え方に出会う学習を楽しみにする姿があった。

計画性をもって無理のない把握を重ね、評価材を蓄積していくことが大切です

レッスン⑪「指導上の留意点」に書くこと

備忘録として役に立つ「指導上の留意点」にしよう！

「指導上の留意点に何を書けばよいか？」と悩む人は結構います。

この欄は、文字通り授業者が「道徳科の学習指導を行う上で気をつけるべきポイント」を具体的に記し、それを授業の際に役立てる、いわば授業実施上の授業者必携メモ、つまり「備忘録」ととらえればよいでしょう。

この欄に「発問の意図」や「指導の意図」などを書いている指導案を見かけますが、それはあまり意味があると思えません。そういうことは学習活動（発問など）を見れば分かることですので、書く必要はないと思います。

「指導上の留意点」に書いておくとよい事

○座席の配置

学習活動を行う上で、それぞれの活動にふさわしい座席の配置があるはずです。

○児童への指示・説明

教材を読む視点の指示や難意語の説明などを簡潔に書いておくと便利です。

○学習活動のさせ方

学習活動（グループ学習、ペア学習、書く活動、役割演技など）を行わせる上で児童に指示すべき点は多々あります。

○配布物

授業中に児童に配布する教材等の配布のタイミングや回収のタイミングなどを記しておきましょう。

○ＴＴ方式など、協力的な指導

校長、教頭などの参加による指導ではその役割を具体的に記しておきましょう。

○視聴覚機器等の取り扱い

機器の扱い、使用場所、撤去のタイミングなどを記しておくと便利です。

○教材提示の方法

どんな方法で、何に留意して教材提示を行うか、具体的に記しておきましょう。

○板書構成

板書計画を基に児童の発言を分類・整理するポイントや板書の活用について記しておきましょう。

○ワークシートの扱い

その大きさ、書く時間、発表の有無などの留意点を書いておきましょう。

○補助発問

あらかじめ設定した主発問で十分な反応が得られなかったり、ねらいの方向から逸れる反応が出たりした場合に備えて、あらかじめ用意しておくのが補助発問です。どんな時に補助発問をするか、具体的に記しておきましょう。

○指名の仕方・話合いのさせ方

話合い活動は一人一人が自分の考えをもって行うことが大切です。いつ、誰から始めるか、何に留意して進めるか、などを具体的に書いておきましょう。

○ゲストティーチャーの活用

保護者や地域の人々等の参加・協力を得て行う授業があります。その際、事前に

「導入」の例

主題名：大切な友だち（泣いた赤おに）小学校第３学年　B[友情、信頼]

学　習　活　動	指導上の留意点
1　大好きな友だちのことを考える。 ○　一番大好きな友達を一人思い浮かべましょう。 その友達のどんなところが好きですか。	・目を閉じて考えさせる。 ・想起する時間を十分にとる。 ・名前は言わせない。 ・グループの形を作り、順番に紹介し合う。

「展開の前段」の例

主題名：清々しい気持ち（手品師）小学校第６学年　A[正直、誠実]

⑴(手品師が迷いに迷う場面を２:２で役割演技する) A　大劇場に出たい手品師 B　男の子との約束を守ろうとする手品師	・２：２で向き合って行わせる。 ・必ず「でもね」と言ってから、交互に発言させる。 ・A と B の役割交代は必ず行う。 ・手品師の多様な考えを分類・整理し、板書に位置付ける。

主題名：ともをおもうこころ（二わのことり）小学校第１学年　B[友情、信頼]

2「二わのことり」を視聴し話し合う。	・登場する小鳥すべての名前をペープサートに書いておく。 ・臨場感あふれる教材提示に努める。

「展開の後段」の例

主題名：あたたかい心で（ぐみの木と小鳥）小学校第２学年　B[親切、思いやり]

3　困っている人に「ありがとう」と言われて、「よかった！」と思ったことはありますか。	・A６判の用紙に記入させる。 ・行為だけでなく、そのときの自分の気持ちも振り返らせる。 ・書く時間は５分設ける。

「終末」の例

主題名：正直に言えないと苦しいな（どうするかじろう）

小学校第 2.学年　A[正直、誠実]

4　教師の苦い体験談を聞く。	・いけないことをして正直に言えずに心が暗くなったことを話す。謝ったことでその気持ちが晴れていったことも加える。

打ち合わせた役割等のポイントを記しておくとよいでしょう。

○説話

もし説話を行うならば、その内容などを簡単に記しておきましょう。

○評価

最近、「指導上の留意点」欄に評価の視点と方法を入れた学習指導案が増えてきました。児童の「学習状況」をいつ、どこで、どのように把握するかを具体的に記すことができて効果的だと思います。

レッスン⑫　家庭・地域向け公開授業用学習指導案の作り方

易（やさ）しく、深く、面白い　公開授業用学習指導案を作ろう！

前回の学習指導要領から道徳授業を家庭や地域の人々に公開し、道徳教育についての共通理解を深め、相互に連携を図ることが記載されました。そのことにより、各学校では様々な形で授業公開を行っています。

ところで、公開授業の学習指導案はどうしていますか？

ないよりはあった方がよいですが、教師用の学習指導案をそのまま使うのはいかがなものでしょう。では、どんな点に留意して公開授業用の指導案を作ればよいでしょう？

一　難しいことを易（やさ）しく

教育の専門用語は使わないことです。仕事柄、私たちは日常普通に使っている言葉でも保護者や地域の人々にとっては馴染みのない難解な言葉です。

したがって、一般的で分りやすい言葉を使うことに留意しましょう。

二　易（やさ）しいことを深く

しかし、授業の中味は深くなければなりません。教師の専門性がしっかり発揮されてこそ「さすが、先生！」です。

そのためには、いきなり公開授業用の学習指導案を作るのではなく、まず教師用の学習指導案をしっかり深く作ることが肝心です。

中味が深い授業とはこういうことをいうのです。中味が浅い指導案を公開授業用に直しても、やはり中味が浅い公開授業用指導案にしかなりません。

この「道徳科学習指導案作成（超）×3入門」を手引きに、探究心をもって深い教師用学習指導案を作成しましょう。

三　深いことを面白く

「易しく、深く」といっても、面白味のない固いだけの授業内容では心が動きません。

血の通った生身の人間の温もりが感じられる指導案を作りましょう。

道徳科授業は教師の人間性で行うものだということを忘れてはいけません。深い内容を面白くしましょう。

面白いというのは、人間くさいということです。温かさも冷たさも、強さも弱さも、美しさも醜さも備えた人間としての生身の人間性を指導案の中に織り込みましょう。

その人間性に人々は安心と共感と信頼を寄せるのです。

私たちが教職の仕事を選んだということは**教職という人生**を選んだということだと私は思っています。

参考までに、東京都小金井市立東小学校の公開授業用の学習指導案を掲載します。参考にしてみてください。

主題名　**大切な友達**

教材名　**「たまちゃん、大すき」**

B　友情、信頼

3年　1組

田上　由紀子

育てたい子どもの心

どんなことがあっても、たまちゃんが大切な存在であることに気付いたまる子の気持ちを考えることを通して、友達を理解し、信頼し、大切にしようとする心を養う。

友達は、家族以外で特に関わりを深くもつ存在である。時には遊び仲間として、時には相談相手として互いに支え合い、助け合い、励まし合っていく存在が親友である。こうした親友を得た時、人の喜びは倍加し、悲しみは半減する。

こうした友情を築くためには、ただ何となく一緒に過ごしているだけではなく、時にはけんかをしても、そのかかわりを通して相手の存在の大きさやよさの実感をさらに深め、友情の絆を一層固くしていくことが大切である。

本授業を通して児童に友情の素晴らしさと親友の大切さを感得させたい。

授業の流れ

1．今日はどのような学習をするのかを知る。

2．教材を読み、主人公の気持ちや考えについてみんなで話し合う。

学習①　おなべを見ている時のまる子の気持ちについて

学習②　タイムカプセルを探している時のまる子の気持ちについて

学習③　たまちゃんと抱き合っているまる子の気持ちについて

4．大切な友達について自分の生活をふり返る。

5．友達のことが書かれている詩を聞く。